
「胆石性膵炎における EUS-guided ERCP 戦略の有用性に関する後方視的研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんのカルテ情報等を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2017年4月1日から2025年3月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、胆石性膵炎で内視鏡検査を施行された方を対象としております。

2. 研究の目的

胆石性膵炎において胆管炎合併もしくは胆汁うっ滞所見を認め、画像検査で総胆管内に結石/胆泥を認める場合には早期の内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP：Endoscopic retrograde cholangiopancreatography）/内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST：endoscopic sphincterotomy）が推奨されるが、コンピュータ断層撮影（CT：Computed Tomography）陰性結石やERCPの偶発症が問題となります。当科ではCT陰性症例に対しては超音波内視鏡（EUS：Endoscopic Ultrasonography）を先行して行い、結石/胆泥を認めた場合のみERCPを行うEUS-guided ERCPを行っており、その治療戦略の妥当性を評価するために本研究を計画しました。

3. 研究期間

病院長の許可後～2027年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年4月2日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

臨床所見：年齢、性別、現病歴、既往歴、内視鏡検査歴等

血液所見：血球、肝腎機能、膵酵素、炎症反応、凝固能等

画像所見：内視鏡所見、透視画像所見、CT・MRI 等

内視鏡検査関連の情報：胆管径、胆管結石サイズ、偶発症等

診療記録：入院期間等

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医大総合医療センターにおいて、研究実施者である中川 慧人が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

胆石性膵炎で入院され、内視鏡検査を受けた患者さんの検査を実施した際に生じた検査データ、画像データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 松原 三郎（研究責任者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 中川 慧人
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 新井 智洋
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 砂田 莉沙
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 池田 守登
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 倉岡 直亮
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 村上 規子

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

5. 試料・情報の二次利用

本研究で収集した情報を本研究に関連した将来計画される研究に利用（二次利用）する可能性があります。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

連絡先

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター

担当 消化器・肝臓内科 助教 中川 慧人

TEL : 049-228-3564

(平日 9 時～17 時)

○研究課題名：胆石性膵炎における EUS-guided ERCP 戦略の有用性に関する後方視的研究

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 松原 三郎